

サンスを遂行することである。真正ヒューマニズムは、人間の絶対化を排し、人と他（人間と自然—生物）と共存共栄を果たすものでなければならない。真正ヒューマニズムを原理として、世界史の創造につとめる方向、これこそ問題解決の方向でなければならない。ここに、21世紀への国民教育を旨とする教育課程の根源的原理次元を自覚しなくてはならないであろう。

#### 4. 新教育課程実施にこめる願い

新しい教育課程による教育が展開していくなかに、筆者はつぎのような願いをこめたい。本当に新しい教育課程による教育が、世界史の新たな原理に支えられ、真に21世紀への国民教育であるためには、深くしかも日常的に配慮され実践されることを願うものであるが、それは、まず、新教育課程による教育の旨とする望ましい人間像は、決して単に被教育者へのみ期待されるべきものではなくて、教師その人および世の親たち大人たちがともに目ざさなければならないものとして、自覚実践しなければならないということである。それには、どのような方策を必要とするであろうか。これは学校教育を直接担当する側が用意しなければならない。その理由は、すでに明らかなように、教育課程が学校教育のものであるからであるが、学校の中に限定しては、旨とする人間像への育成は十分に果し得ないばかりか、望まぬ時流に押し流されてしまうことになりかねないのであるから、学校側から、家庭と地域社会に訴えかけなければならない故にである。

方策はいろいろくふうされるであろう。つぎのようなものはいかがであろうか。

- (1) PTAの研修計画の中に、望ましい人間像にかかわる学習を取り入れて、継続して実施する。その内容には、望ましい人間像の意味するもの、その根底にある原理について、お互い承知するとともに、親としてどのように振舞うべきかを探究することが入れられるべきであろう。
- (2) 社会教育との連携をはかり、成人学級などの学習内容に取り入れるようにする。

・教師自身については、既に実施されてもいるで

あろうが、

- (1) 校内現職教育の主題に、望ましい人間像およびその根本原理を取り上げ、十分検討吟味し、日常生活の指導にまで具体的に配慮を及ぼすように努めるべきである。
- (2) 地域の研修や教育センターの研修の主題として、取り組むようにありたいものである。

さて、真正ヒューマニズムを育てていくについて、日常どのように配慮すべきであろうか。

真正ヒューマニズムは、思いやり、いつくしみの心のはたらきを中心としている。それは愛のあらわれである。望ましい児童生徒像の資質内容の中に、自然愛や人間愛が述べられ、さらに、家族愛、郷土愛、祖国愛等が述べられている所以である。この愛のあり方は、より高くより純なるものに高められていかなければならない。それは人格美の方向にすすみゆくのでなければならない。われわれは、日常、人と自然（人間以外の生物をふくめて）とに対する思いやり、いつくしみの心を育てることに努め、それをより美しいあり方にみちびくことに努めよう。

ところで、愛は良心のみちびきによって、正しく発露し、より美しいあり方にすすみゆくのであることに思いを致し、日常良心をみがく教育につとめるのでなければならない。知識や技能や態度は、愛に根ざし、良心の命ずるところに従って発動し、人格美の内実となるのでなければならない。

新しい教育課程による教育は、日常このようなあり方において展開されること。愛と美と良心と、それらが日頃いつも身辺的に配慮されていること。かくあれかしと願うものである。

注1 中沢正寿—人間性豊かな生徒の育成を目指す教育課程の編成，中等教育資料No. 395，昭和54年4月号，P. 5。

注2 清水 博—生命を捉えなおす，中公新書 503，昭和53年5月25日，P. 254。